

川越市立地適正化計画見直し説明会
地区別の災害リスク

本庁地区

地区別の災害リスク(本庁地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]

<本庁地区全体の特徴・リスク>

都市機能誘導区域・居住誘導区域

- ・地区の中央部に都市機能誘導区域が設定されているほか、市街化区域の大半が居住誘導区域となっている。

洪水(浸水)

- ・新河岸川の左岸部に洪水浸水想定区域が広く分布しており、床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が大半を占めており、中でも西川越駅周辺や、新河岸川と古川、国道254号に挟まれたエリアは居住誘導区域に設定されている。さらに、地区南東部の仙波町から岸町周辺にかけて、居住誘導区域内が浸水想定区域となっている。地区全体にわたり、洪水浸水想定区域内に要配慮者利用施設が多く立地している。

雨水出水(内水)

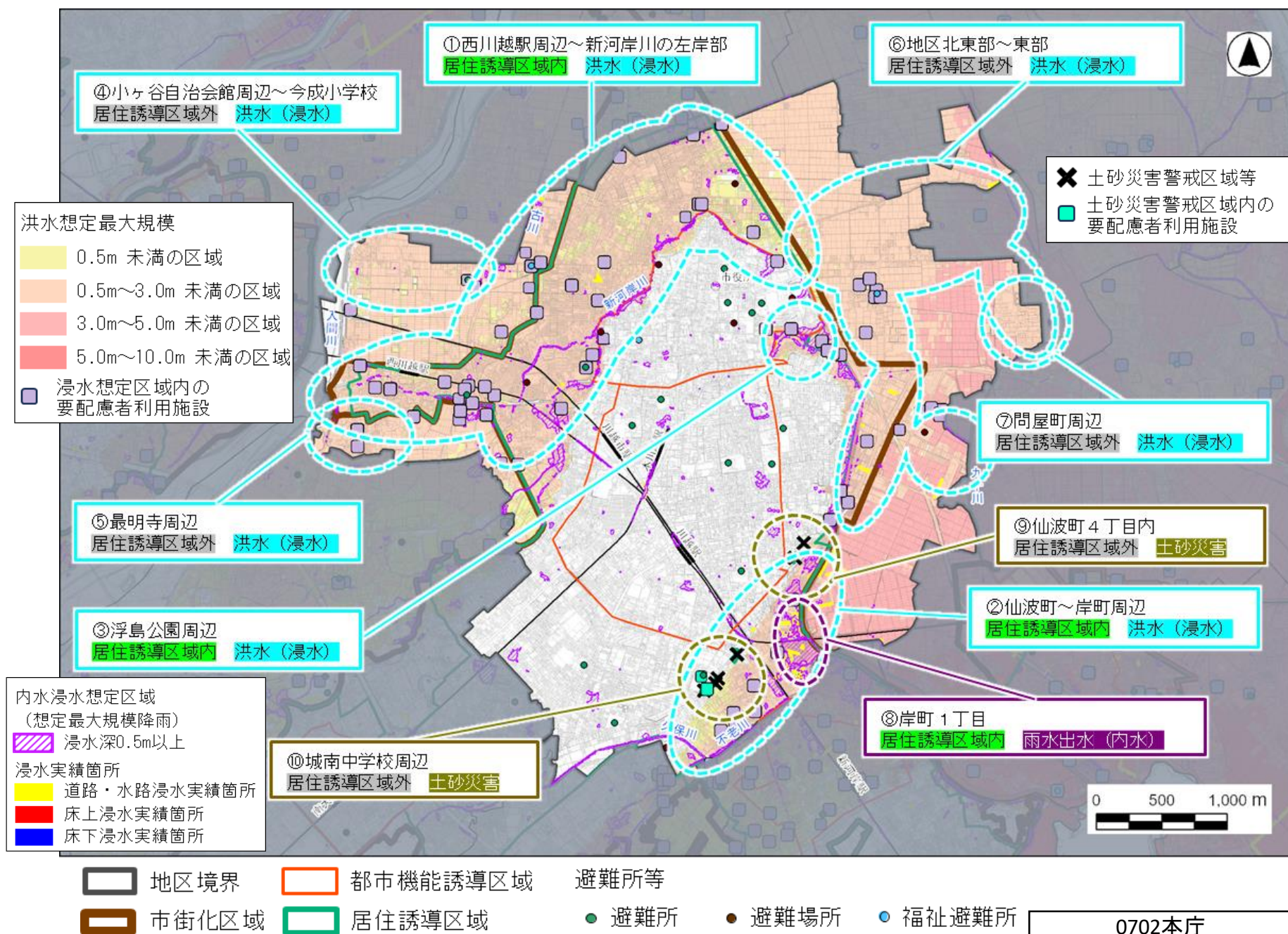
- ・床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深が0.5m以上)が地区内に広く点在しており、家屋が立地しているエリアも存在する。また、道路の浸水実績がある箇所も点在している。

土砂災害

- ・地区南東部に土砂災害警戒区域が存在している。当該区域は居住誘導区域から除外されているが、複数の家屋や要配慮者利用施設が立地する。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
①西川越駅周辺～新河岸川の左岸部 ②仙波町～岸町周辺 居住誘導区域内 洪水(浸水)	市街地や集落等が形成されており、人口、高齢者人口ともに比較的多いエリアとなっている。洪水による床上浸水のリスクがあり、垂直避難が困難な家屋が多い。また、岸町1丁目付近の居住誘導区域においては中頻度(50年に一度)の確率で床上浸水するリスクがある。
③浮島公園周辺 居住誘導区域内 洪水(浸水)	市街地が形成されており、人口、高齢者人口ともに比較的多いエリアとなっているが、洪水による床上浸水のリスクがある。
④小ヶ谷自治会館周辺～今成小学校 ⑤最明寺周辺、⑥地区北東部～東部 居住誘導区域外 洪水(浸水)	居住誘導区域外であるが、集落等が点在しており、洪水による床上浸水のリスクがある。垂直避難が困難な家屋が多い。
⑦問屋町周辺 居住誘導区域外 洪水(浸水)	居住誘導区域外であるが、事業所が多く存在し、洪水による床上浸水のリスクがある。
⑧岸町1丁目 居住誘導区域内 雨水出水(内水)	市街地が形成されており、内水氾濫による床上浸水のリスクがある。過去にエリア内の多くの家屋が床下・床上浸水した実績がある。
⑨仙波町4丁目内、⑩城南中学校周辺 居住誘導区域外 土砂災害	土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域内に複数の家屋や要配慮者利用施設が立地する。

地区別の災害リスク(本庁地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]



地区別の災害リスク(本庁地区) [ミクロ分析:洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]

＜本庁地区全体の特徴・リスク＞

家屋倒壊等氾濫想定区域

- ・ 新河岸川、不老川の沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）が分布しており、当該エリアは大半が居住誘導区域となっている。
- ・ 入間川沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）が分布している。

洪水（浸水継続時間）

- ・ 川越駅～西川越駅間の居住誘導区域内に長期にわたり浸水が継続するエリアが存在する。また地区東側にも当該エリアが存在するもののこちらは市街化が進んでいない。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
⑪新河岸川・不老川沿川 居住誘導区域内 家屋倒壊等氾濫想定区域	市街地が形成されており、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に家屋が多く存在するため、洪水時に家屋が倒壊・流失するおそれがある。
⑫入間川沿川 居住誘導区域外 家屋倒壊等氾濫想定区域	集落等が形成されており、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）内に家屋が多く存在する。洪水時に木造家屋が倒壊・流失するおそれがある。
⑬岸町1丁目周辺 ⑭上野田・小室・今成周辺 居住誘導区域内 洪水（浸水継続時間）	浸水継続時間3日以上エリアとなっており、浸水が始まると屋外への避難が困難となり長期孤立するおそれがある。また、エリア内には要配慮者利用施設も立地している。

地区別の災害リスク(本庁地区) [ミクロ分析: 洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]

